

高校
阿部野新聞

発行所
大阪市阿倍野区阪南町
大阪府立
阿部野高等学校新聞部
編集兼発行人
清水正明

本校初参加、記者團を特派

集う高校新聞人五百有餘

全國高等學校新聞連盟（高新連）第二回総会は去る八月十三、十四日、東京早大本校講堂に於いて参加校、五十六校、五百有余名の高校新聞人が集まつて開催された。限講室に於いては東京の全国的発展は遂に今回高校新聞人に望するに至りに、同大会には特別派遣記者として渋谷和一、清水正明、佐藤明の三名を東京に送り、初参加ながら大空会の出陣に教えられるという活躍ぶりを示した。

本校大会書記團に推薦さる

大衆第一日は開行い、大会はこれを承認した。議
会宣言に引きつ
づく総会実行委
員長の準備発表
に、午前十時
開会、直ちに連
合会は議長可
と決定した。議長団の挨拶があり
書記団の推薦を
加盟後、大会参加校（未加盟校を
含む）の発表があり米賀講演に
続き、前東大新聞研究所長、野秀
氏他五氏の新聞の「編集集、その
他」についての講演があり、日本

ガンーロスロ大会

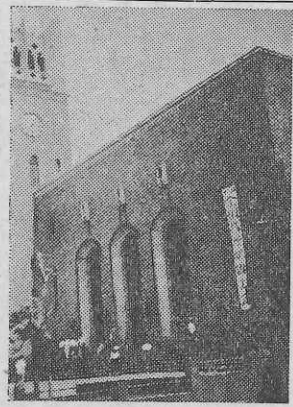
一、學生新聞の本質を理解、把握し、良心と誠意をもつて編集にあたらう

一、平和を守るために眞實を報道しよう

一、言論、出版、思想、學問の自由を守らう

一、我々の編集權を確立しよう

一、新憲法を保持しよう



聞協会始め数団体よりのメツセー
ジがあり、ひきつづき中央事務局
長の高新連の一年回顧報告、新聞
コンクールについての説明があつた。つづいて中央

名が挙げられたが二名辞退により戸山高（東京）の古沢君が信任投票により当選した。

昼食休憩時に各地方別に地方総局長を選出し大阪は三島野高に決定した。

再開後、新事

議長選出に移り群馬高（関東）高津高（大阪）洛北高（近畿）を決定して、各地方総局長による地方情勢報告があり、一九五〇年度会計報告が行われ満場一致で承認した。

第二日は十四日午前八時半開会
新聞評論家 清水幾太郎氏 他二新
聞社のメツセージ代読の後、中
央事務局長の一般情勢報告に対し

各校自治會の現況

二十六年の各校自治会の予算會議提出、議場は、我が部が成立したが、例によつては増額を要求してゆずらず、如く、相当波瀾万丈を來した。五時間半にわたつて雪議云々有り、審議に審議を重ねて過した。翌日の協議会では波

いずこも同じ資金難

つたが、一時間半の急行
決定をみたという。
十四万五千円である。
を前年度に

月刊小牧高校新聞六月二十日附第
二十号の報するところによると、
及び総務に一任
財政委員会が指示事項中文化運動
て多少修正、生
の比率は定めておかない等を取提
定を見た。総額

（鳥取西高校新聞部発） 円の予算案は四日間もみにもんだ
聞（月刊）七月十三日 末二十五対二十一という接近数を

の響きるところはよれもつて可決された。

と。
高校生のみによる唯一の全国機関
討議絶対多数で可決したる高
新連第二回総会の二日間に

て古沢新事務局長立つて
亘る大会の幕を閉じた。
を統み上げれば満場万
てこれを承認可決、自
【寫眞は会場の早稻田大
學大隈講堂】

後期役員選舉

二十一日迄に完了

計問題で渡瀬に渡瀬を重ねた前
自治会も一応の公約も実行され
歌・応援歌もここにその設置
が、いよいよ今月をもつて
期完了する。

小林、西元兩君が當選

本校生徒歌應援歌成

落ちくる 巖に逃げ
確固不動の 意気を

選出した。

主任作曲依頼中であるが遅くともには発表可能で、来るべき運動シーズンには間に合わせ

進適本年

来

進適本年末に施行

來年度入試要

來年度入試要項決る

制大学短期大学

査問題によつて実施。

旧制専門学校等の進学適性検査
進学適性検査の
重要項は去る七月四日、文部
締切は次の通り

学術局より公表された。 内主要要項―― 学適性検査は、各校にかける力検査、身体検査及び調査書検査等と二心同難しこれに先	受験願書受付開始 昭和二十六年 願書締切 昭和二十六年
--	---

審査等と一応切離しこれに先
進学適性検査出
受験者は出身
昭和二十六年十二月十六

(日曜日) 全国一斉に同一検 によつて作成

(3) 入学者の検査
昭和二十七年四月二十日迄。

(3) 入学者の検査
昭和二十七年四月二十日迄。
